

H28年8月9日(火)

「鳥取県の小学校体育に望むこと」

講師 鳥取県教育委員会体育保健課 生田 優介指導主事

1 鳥取県の児童生徒の現状

H27 鳥取県体力・運動能力調査結果、H27全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果より

「体力・運動能力」

* 体力合計点昨年度との比較

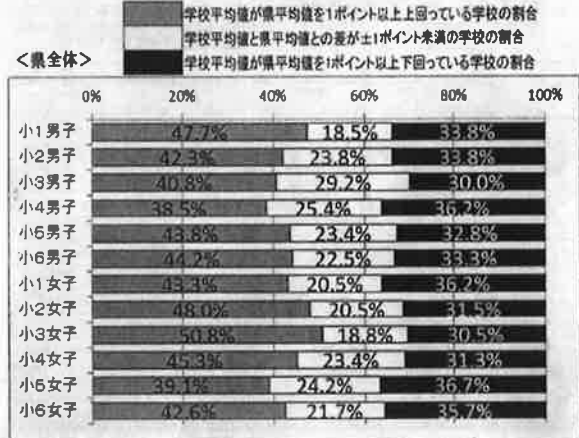
男子	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
H27	30.67	37.73	43.80	49.04	54.43	59.50	33.69	42.85	49.44	52.20	57.51	60.13

女子	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
H27	30.62	38.41	44.09	49.95	56.18	60.50	44.40	49.63	52.21	51.88	54.50	55.74

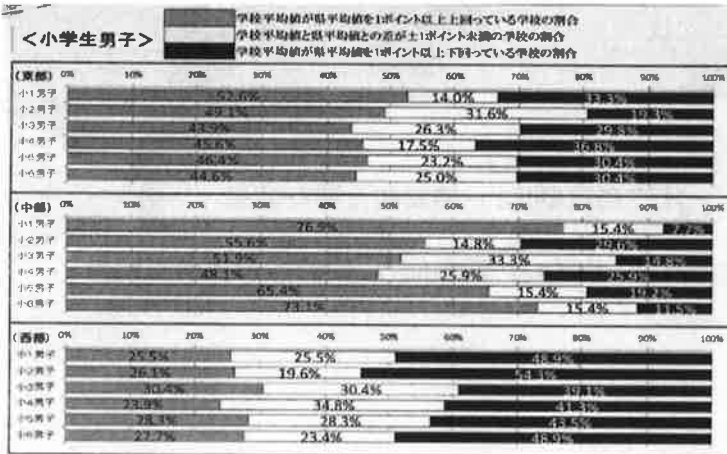
前年度数値を上回る
前年度数値を下回る

- ・ 昨年の数値を上回った学年と下回った学年が12学年ずつ。
- ・ 男女とも同じ傾向を示す学年が多い。

* 学校平均値と県平均値の比較(体力合計点)



* 地域別学校平均と県平均との比較



- ・ 小学校女子も同じような傾向であった。
- ・ 学校平均値と県平均値を地域別に比較してみると差はあるが、やるべきことは同じである。
- ・ この結果を踏まえて地域差を解消する取り組みが必要である。

* 全国との比較

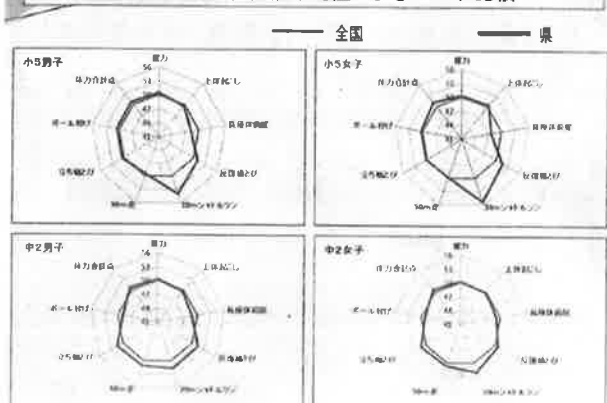
H27全国体力・運動能力、運動習慣等調査 実技に関する集計(全国との比較)

県平均値が全国平均値を上回る

県平均値が全国平均値を下回る

区 分	男子				女子			
	小学校5年		中学校2年		小学校5年		中学校2年	
	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県
1 握力(kg)	16.45	16.63	28.93	29.14	16.05	16.17	23.68	23.75
2 上肢筋力(kg)	19.58	19.43	27.43	27.22	18.42	18.69	23.26	23.22
3 握力耐力(kg)	33.05	31.75	43.08	41.82	37.44	35.55	45.53	44.74
4 握力持久力(kg)	41.60	42.47	51.62	52.82	39.55	40.71	46.09	46.64
5 握力持久力(kg)	51.64	59.93	85.56	89.55	40.69	42.44	58.06	62.23
6 50m走(sec)	9.38	9.43	8.01	7.92	9.62	9.64	8.84	8.79
7 立ち幅跳び(cm)	151.24	151.01	194.05	197.90	144.77	145.08	167.28	169.90
8 ボール投げ(m)	22.52	23.02	20.65	20.05	13.77	13.90	12.83	12.82
9 体力合計点(点)	53.80	54.41	41.89	42.62	55.18	56.18	49.08	49.29

各種目・体力合計点平均値によるTスコア比較



↑全国平均を上回った項目

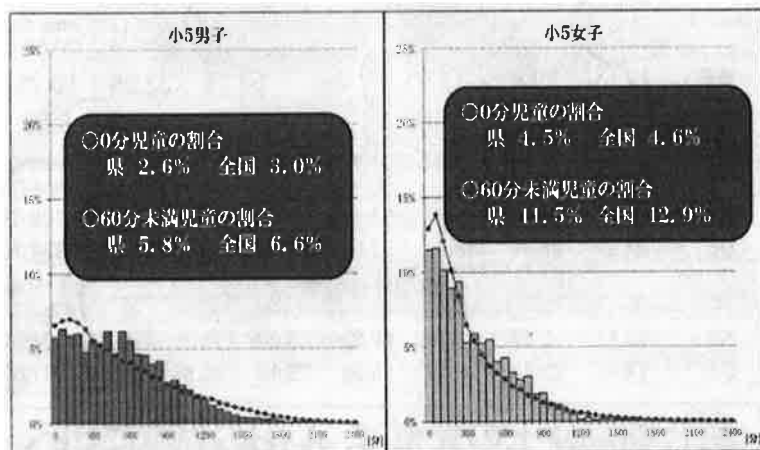
握力、反復横跳び、20mシャトルラン、立ち幅跳び、体力合計点

↓全国平均を下回った項目

上体起こし、長座体前屈、小学校50m走、中学校ボール投げ

《運動習慣や生活習慣と体力・運動能力との関わり》

*運動習慣（1週間の総運動時間）



- ・1週間の総運動時間が60分未満及び0分の児童が存在している。
- ・業間体育や休憩時間を利用した運動の取り組みを工夫することも大切であるが、家庭や地域と連携を図りながら、日常生活の中で、運動習慣をつけていくことが必要である。

*生活習慣（総合判定による比較から見えること）

小5男子	Q12.平日のテレビ・ビデオの視聴時間					Q13.平日のゲームをする時間				
	1.5時間以上	2.3時間以上5時間未満	3.1時間以上3時間未満	4.1時間未満	5.全く見たり、聞いたりしない	1.5時間以上	2.3時間以上5時間未満	3.1時間以上3時間未満	4.1時間未満	5.全くしない
AB	7.8%	19.9%	48.5%	22.1%	1.6%	3.5%	8.4%	31.4%	38.6%	18.1%
DE	15.1%	21.9%	41.0%	19.3%	2.6%	7.0%	15.6%	32.9%	30.6%	14.0%

小5女子	Q12.平日のテレビ・ビデオの視聴時間					Q13.平日のゲームをする時間				
	1.5時間以上	2.3時間以上5時間未満	3.1時間以上3時間未満	4.1時間未満	5.全く見たり、聞いたりしない	1.5時間以上	2.3時間以上5時間未満	3.1時間以上3時間未満	4.1時間未満	5.全くしない
AB	7.8%	19.5%	43.8%	26.8%	2.1%	1.2%	2.7%	17.8%	46.7%	31.6%
DE	6.9%	23.0%	40.5%	27.7%	1.8%	3.0%	5.9%	17.8%	44.7%	28.5%

【総合判定 DE の児童が、AB の児童と比べて見える姿】

- ・テレビ・ビデオ・ゲームに関わっている時間が長くなりがちである。
- ・睡眠時間が短く、リズムが不規則（寝る時間が不規則）になりがちである。
- ・食事のリズムが不規則になりがちである。 ・肥満傾向、やせ傾向の児童が多い。
- ・生活の中で運動をしている時間が短い。

（休み時間を校舎内で過ごすことが多い。下校後、休業日の運動時間が短い。）

2 次期改訂に向けて

(1) 今後の動き（予定）

- H28 中教審答申、パブリックコメント、新学習指導要領告示
- H29 解説書、評価の参考資料作成
- H30.31 移行措置
- H32 小学校完全実施

(2) 学習指導要領改訂の方向性（案）



(3) 外国語活動の充実

- ・年間35単位時間増→地域や各校の実態に応じた柔軟な時間割編成

(4) 育成すべき資質・能力の三つの柱（案）

- ・学びに向かう人間性等（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）
- ・知識・技能（何を理解しているか・何ができるか）
- ・思考力・判断力・表現力等（理解していること・できることをどう使うか）

(5) アクティブラーニングの視点で授業の改善

【3つの視点】

- ・習得・活用・探究という学習プロセスの中で問題発見・解決を念頭に置きつつ、深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ・他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているか。
- ・子どもたちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

※〇〇をしたからアクティブラーニングではない。ひと言で言えば、子どもたちの思考がアクティブになること。

【評価の観点】



(6) 育成すべき資質・能力を踏まえた教科目標と評価のあり方について(変更点・ポイント等)

【体育科(体)・保健体育科(保)の特質に応じて育まれる見方・考え方】

- ・視点: 公正、協力、責任、参画、共生、健康、安全(体)

【知識・技能】

- ・「わかる」「できる」を相互に関連づける。(体)
- ・「技能」の内容は限定的であり、全単元ではない。(保)
- ・内容のまとまりに大きな変更はない。(保)

【思考力・判断力・表現力等】

- ・健康に関する課題を解決する学習を通して身につける。(保)
- ・生活との比較関連…どれだけ生活に近づけて考えることができるか。(体)

【学びに向かう力・人間性等】

- ・友だちの考えや取組を認める…共生の部分(体)
- ・小学生なりに健康が大切だと思える態度を身につける。関心の持たせかたが重要(体)

【学習過程のあり方】

- ・三つの資質・能力をバランスよく育む。(体・保)

【「目標に準拠した評価」に向けた評価の観点の在り方】

○知識・技能…「わかる」「できる」の習得に順序性はない。どちらも重要。

○思考力・判断力・表現力等…「表現」とは、思考し判断したことを他者に言葉や文字、動作等で表現すること。

○主体的に学習に取り組む態度…公正、協力、責任、参画、共生、健康、安全の態度に関する指導を総合的に捉えて評価する。

学習活動に主体的に取り組もうとしていることを評価する。

【その他の改善・充実】

- ・現代的な諸問題を踏まえた教育内容の見直し
- ・特別支援教育の充実、個に応じた学習の充実
- ・「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」に向けた学習・指導の改善充実

3 指導要領改訂に向けた準備

次期学習指導要領の円滑な実施のために今すべきことは、現行指導要領の趣旨を踏まえた指導の充実である。

【学校体育のさらなる充実に向けて】

- ①運動の楽しさを味わえるようにする。→「またやりたい」「もっとやりたい」
- ②指導内容の明確化
 - 態度の習得が楽しさや喜びにつながるように
 - 知識、思考・判断の指導により、楽しさや喜びをさらに味わうことができるように
 - 多様な「できる」を保証する
- ③個に応じた指導の充実
 - 苦手、前向きでない児童へのアプローチ(負の要因を取り除く)
 - 学習内容の習熟に応じた指導の工夫(全ての児童の活動や活躍ができる場の保証)
- ④言語活動の充実
- ⑤ICTの活用